

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2009.6.21
VOL. 52

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

そ の後の新宿

笠井和明

あの喧しいマスコミの取材攻勢がある日突然潮を引くよう過ぎ去った頃、皮肉な事に新宿の路上では、まさに「ど・ど・ドォー！」てな感じでGWを境に仲間が増え始め、昨年まで300名代前半であった炊き出しの数も、今や500名代後半となり、中央公園にせよ、戸山公園にせよ、新宿駅西口地下広場にせよ、あちこちで身体を横にし、路上で寝る人々の群が一気に目立つようになってしまった。

もちろんこれだけ一気に増えてしまうと、新宿福祉事務所などの相談現場も相談件数がどっと増え、あらゆる施設もあっと言う間に満床となり、既存の施策の回転すら出来ない状態で、人は溜まるは、書類は溜まるはで、まるで嵐がやって来たかのような様相となっている。

も一つ皮肉な事に、日銀にせよ財務省、経産省にせよ、「1～3月期」に景気は底を打ったと発表し、雇用危機も調整局面を脱したとの観測が支配的になっている。

この種のタイムラグと云うのは実におもしろいも

ので、皆が騒ぎ立てている頃は実に冷淡でいられるが、皆が静かになった頃に現場は大混乱となる。巡り合わせがピント外れなのが、何を隠そう路上の現場なのである。

もちろん、この事態は説明可能ではある。

建築日雇い市場で昔から言われている「端境期」（年度初め公共事業がすぐに始まらない事から来る市場の季節的な冷え込み）と、昨今の不況により雇用調整にあった派遣、期間工、アルバイトなど不安定就労に就いていた者が、時間を追う毎に生活水準を下げ、ついに無一文になり路上での暮らしを選択せざるを得なくなった「ダブルパンチ」による現象である。

運悪く、この二つの要因が時期的に重なったために新宿界限では約200名の増と云う結果につながった。

「端境期」は季節的な事象なため当然ながら予想や準備は可能であった。他方で今時の不況の中、解雇された人々の内、どの程度の人々がどの地点で文無しになりホームレス化するかは、これは誰にも予想できない（予想するための基礎資料がどこにもない）。予想できない事を良い事に、マスコミなどは「解雇即ホームレス」論（?）を昨秋あたりから煽っていたが、これはまんまと外れた訳である。私たちが常日ごろから言っていた通り、（当たり前の事だと思うのであるが）失業者がすべてホームレス化する訳ではなく、その一部が他に頼る術がなく転落の時間をかけてホームレス化するという事実だけは、この時期になっての現象によって、ある意味証明できてしまった格好である。

まあ、「ダブルパンチ」だけはまいてしまったが、波は常に荒れてはいまい。きっとどこかで平



穏に戻る事だろう。

今年の危機の特徴は「端境期」がやたらに長い。やたらに長いと、土工層だけでなく、職人層にも大きな影響が出る。手に職を持っても肝心の仕事がなければどう仕様もない。飯場から出されたり、安いアパートから出されたり、高田馬場の「寄せ場」に仕事がないかと流れ着いたは良いが、ここの市場もめっきり冷え込み、戸山公園で野宿なんて云う一見さんの仲間にこの間、大勢会っている。

製造業の不況にばかり世間様は注目するが、業界がなかなか再編されない建設不況はもはや構造的なものになりつつあり、いかに中小企業対策等を施したとしても仕事がなければお金は回らない。公共事業の削減が真綿で首を閉めるが如く地場の建設業者を圧迫し、所謂「地方ゼネコン」が次々に倒産。これまで建設業に従事していた中高年齢者層はこれまで次々に失業。それでも飯場から飯場へと渡り歩きながら何とか食いつないでくるも、今時の不況で都会においてさえ民間設備投資が縮小、生き残りをかけた競争激化が職人層にまで直撃と、まあ、こんな感じである。

公共事業と云う柱を失いつつある建設業（補正予算による発注も雀の涙のようである）は、民間市場により影響を受けやすい業種になってしまったようである。そして、その末端に位置する人々には景気回復どころでは全くない状態が長く続いている。

他方で製造業から出された人々はどうなっているかと云えば、こちらは昨秋からかなり強力に雇用対策が打たれたのであるが、それでも尚、ホームレス化する人々の層は一定数出てしまったようである。中高年齢層は「寄る辺」が少ないため転落の速度は早かったが、ここに来て（GW以降）30代、40代の若年層も目立つようになった。地方での暮らしに

踏ん切りをつけて、多少の貯蓄をもったまま再就職のため東京に来た人々は私たちの相談の現場でもたいがい行政の仕組みを利用しなくとも再就職を果たしたのであるが、一文無しになって新宿に流れ着いた人々がこれはもう大変。

ご存知の通り、ホームレス状態になってから仕事による再起を計るための大掛かりな仕組みは、現状では「自立支援事業」しかない。それがそこそこ機能していれば大事には居たらなかったのであろうが、この緊急時に「自立支援事業」は（ある意味当然ながら）常に満床。入りたくとも入れない。しかも、ホームレスの就業機会の提供を謳っている「ジョブステーション」（東京ホームレス就業支援事業推進協議会）は、ホームレス化した人々にせめて就業機会の提供ぐらはするどころか、「住所のない人はお断り」と「門前払い」。住所のない人は「チャレンジネット」（ネットカフェ等で暮らす人々への支援窓口）に行きなさいと、そこへ行ってみても、「東京に何ヶ月居なければ支援対象ではありません」とこれまた追い返される。「そんな殺生な」と、「キャリアアップハローワーク」（非正規労働者就労支援センター）に行っても、雇用促進住宅は既に埋まっているし、てっとり早く現金を稼げるような求人などまったくなく、面接に行く交通費すらないので、諦め路上に戻ると云う始末。

そう云えば、補正予算で「緊急雇用創出事業（基金事業）」が再び予算化され、その内約77億もの予算を確保した東京都であったが、「文書事務」「〇〇電子データ化」「〇〇実態調査」とか、一般の失業者向けの事業が多く、雇用対象者を特定出来ないこの仕組み、結構しつこく要望したのであるが、結果的には路上の人々の雇用に一人たりとも結びつかない事業になっている。

チグハグな対応にしかない大きな要因はこのような事態の変化に対応できない硬直化した東京都の発想にも拠る。

年二回の概数調査結果を金科玉条のよう奉り、未だ都内の路上生活者数は減り続けていると信じ込んでいる東京都は、たとえ実感として異変を感じたとしてもすぐさま身体を動かそうとはせず、静観を決め込む。まずは様子見をしてから、さまざまな動きを見、「これは、やばい」と思えば、「よっこらしよ」と重い腰を持ち上げる（ふりをする）。

これが、かつては「走りながら考える」と称し、臨機応変に新たな施策を駆使して来た東京都路上生活者対策の「成れの果て」である。

そもそも、国の施策として「巡回相談事業」と云



う「アンテナ」を持ちながら、その情報すら有効に収集する機能も作らず、「宝の持ち腐れ」にしているような状態だから、彼らは、今さら何かを変えようと思わないのである。

何も私たちは東京都に法外な要求をしているのではなく、「就業機会の確保」をホームレス状態にあるからと言って差別、疎外せず広く提供するよう。そして、緊急雇用創出事業を真に雇用に困っている路上の失業者になんらか提供してもらいたいと、実に奥ゆかしく、予算のほとんどかからない既存の施策の調整及び整理にて実施して頂けるようお願いしているだけである。もちろんそれは**びほうさく**（避難策）ではないが、何もないよりも避難策でも構わない、ほんの少しでも路上の人々の痛みを緩和する策が、このような極限的な不況期には必要なのである。さすれば明日への希望も失わず、就労への意欲も減退する事なく、必要な人々への今後の「自立支援事業」もより有効に働く事だろうと、建設的に提言しているつもりなのであるが、そんな声にはあまり耳を傾けようもしない。

これだけ相談窓口が増えているのに「たらい回し」で、自分の所の「お気に入り」しか「お客」を採らないようでは何のための公的な相談所なのかと思うのである。

もちろん相談内容には質の差はあるし、お得意の専門分野はそれぞれあるだろう。そんな事が問題なのではなく、一人の相談員が責任を持って各種専門相談につなげて行き総合的な相談体制と解決策を築きあげていくコーディネーター機能がない事が問題なのである。現場は民間に任せたとしても、そう言う全体の視点の調整こそ東京都が最もやらなければならない事であり、それすらやらないとなれば、完全な任務放棄であろう。

東京都に言いたい事は山ほどあるのであるが、いちいち挙げていたら切りがない。一日も早く、いつの間にやら重くなってしまった腰を本当に挙げて欲しいものである。

支援団体はいつも大げさに振る舞うと思っているのであれば、少なくとも子飼いの「巡回相談員」に現場調査（とりわけ夜間の）をさせた方が良く、相談現場である公的機関からの情報も今まで以上に集めた方が良くだろう。知恵と想像力さえあれば、今、路上で起きている事態は恐らく一目瞭然となるのである。

そんな中、国（政府）だけは何故かこのような事態を予測していたのか、今年度補正予算の厚生労働省社会・援護局関係予算の中には、「ホームレスに

対する緊急一時支援措置の拡充」が挙げられ「旅館、空き社員寮等の借上げ方式による緊急一時宿泊事業の推進」「緊急一時宿泊事業利用者に対する総合相談推進事業の充実」の二つの事業の拡充が予算的に確保される事となった。

要は新規に箱物建てるなんて時間のかかる事をやらず、緊急事態なのだから既存の施設などを借り上げて、とにかくにも路上の人々が宿泊できる場所を確保し、自立のための相談体制もつけなさいと言う事である。

当然の事ながら「住所不定」状態は就職活動に決定的に不利である。そこで住民票が設定可能な場所に宿泊させ、各種の就労支援をかける事によって一般の失業者並に条件を整えさせ再就職をさせましようと言うのが、「自立支援事業」のコンセプトであった。その実現のため、東京都は「緊急一時保護センター」「自立支援センター」を設置するための努力を続け、ようやく当初予定通り区内10箇所の設置が相成り、相成ったとたん、5年の持ち回りと云う当初の取り決めに縛られ、壊しては作る、壊しては作るの悪循環（非効率）に嵌まってしまった。それを「えいやっ!」とやってしまったのが悪名高い「路上生活者対策事業の再構築について」（平成19年8月）であったが、そうこうしている内に景気は悪化、「自立支援事業」の需要は高まり深刻な施設不足と云う状態になってしまった。緊急事態だからと言って再び施設を増加させるには、相当の根回しと年月がかかる事が予想され、ほぼ絶望視されていた。

その解決策の一つを、何と厚生労働省が提示してくれた訳である。

さあ、どうする、東京都。



「東京から国を変える」どころか、「判断ミス」を繰り返してばかりいたら、逆の立場に追い込まれてしまった。

繰り返して言うが、重い腰を挙げるのに、今程の好機はないと思うのだが…。

まあ、なんやかんやの動きはあるのではあるが、私たちはいろいろな所に顔を出し、情報を仕入れて来たり、提案をしてみたり、文句を言ってみたりと消耗戦よろしく、私たちの立場で出来ることはやっている。

しかしながら、こう云うだらしのない状態を強いてしまって、本当に路上の仲間には申し訳ないと思うばかりである。

関係性だけはあるだけに、路上を回っていても「どうしたら良いのか？」と云う問いにいくつもぶつかると。あちこちの相談窓口に行っておらんと云ったところで、「全然駄目じゃないの」と猜疑の眼差しが相談窓口どころか、こちらにまで降りかかる。

とは言え、独自で出来ることなどほんの一部に限られている。民間団体のこれら限られた力とネットワークを紡ぎ合せてとも言うのであるが、パワー不足は否めない。民間団体は社会資源をほとんど有していない。マンパワーも不足している。資金もまた限られている。何とか自力でどうにかなる社会環境

ならこれらの力も一定役に立つのであろうが、そうではないこんな非常時にはオプションが足りなさすぎる。

結局は旧来の活動を、状況に合わせて少し拡大する程度しか出来ない私たちは、路上で繰り返される「どうしたら良いのか？」の問いに苛まれ続け、かと言ってどうする事も出来ない中、ただ「頑張って」の声を虚しく吐いているだけの存在でしかない。

まったく頼りにならない支援者と、まったく明日が見えない路上の人々を放置しながら、この社会はどこへ彷徨い続けるのか？路上の果ては限りなく遠く霞んでしまっている。

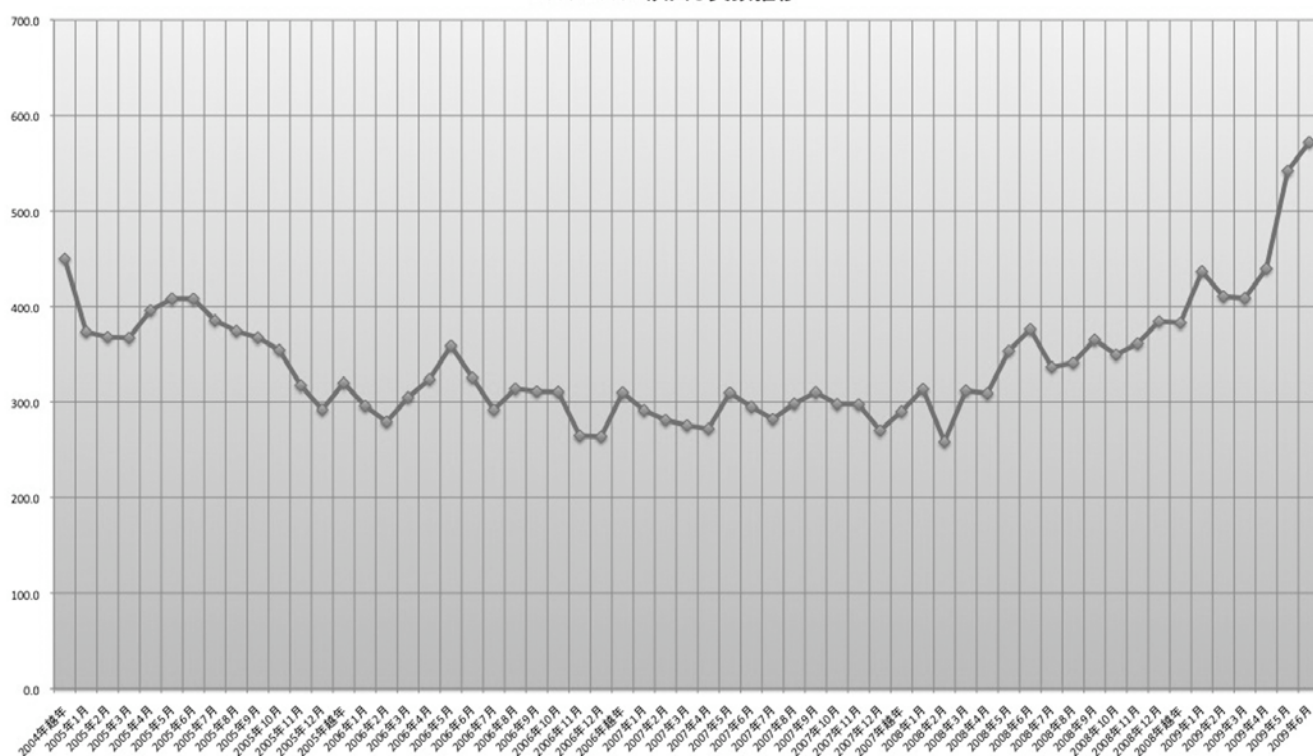
「まあ、そう暗くならなくても良いじゃないのよ」と声をかけてくれるのは、こんな状態に慣れ親しんだ古くからの仲間達。

10年戦争のつもりが、いつのまにやら100年戦争の様相を見せるのなら、こちらもそれに合わせ、息抜きながら走るのも肝要であるのか？

アルミ缶をつぶす音が、朝の新宿に妙に鮮やかにこだましている。

(了)

2005-2009 炊出し実数推移





今年の新宿花見の会は大盛況！ まるで炊き出し状態

春のお祝いは毎年「花見の会」と相場が決まっている。今年も4月4日、中央公園にて冬の疲れをいやす宴が催されました。

例年だと、自分達で酒飲む収入もちとはあったのであるが、今年はこの不況の中、仲間の財布の中はからっ欠。必然、連絡会の花見の会に人々が殺到。と云う訳で、集まった仲間の数は何と400名。スタッフ一同、「これじゃ炊き出しだあ！」と悲鳴をあげながらお弁当を配ったり、酒をついだりと大騒動。

しかし、元気が何より。支援物資を奪い合うくらい元気があれば、これからも大丈夫と、新宿の仲間のたくましさを感じた楽しい一日でした。

第15回新宿メーデー今年も250名結集 都庁交渉をやりぬく

5月1日メーデーも新宿の恒例行事。こちらは花見と違い、ちょっと真面目な行事だけに、いつもそんなに集まらないのであるが、それでも250名、昨年と同様の数の仲間が新宿柏木公園に集まり、路上の仲間たちが置かれている現状を共有しながら、都庁に対する要望をしっかりと確認し、新宿の繁華街を抜け、都庁前を通り、中央公園までのデモを元氣よく行進しました。

道中、都庁との交渉も実施。「失業状態にある仲間に対して緊急の雇用対策等を早急に実施するよう」などの要望書に基づき、話しあいを1時間程行いました。

仲間たちの現状と要望が果たして都庁に届いたのか？届かなかったのか？

担当副参事は頭を抱えておりました。

炊き出し、パトロール、医療相談、衣類配布、シャワーサービスなどやっています。

まいどまいどの事ながら、日常的な支援活動も続けております。現下の課題は急増中の仲間の数にどこまで合せていけるのか？人が減ろうが、増えようが、サービスの質の堅持は大事な事です。

それぞれの体制を強化しながら、「まだまだ大丈夫」と、多少余力を残した支援体制を目指しています。

春、夏ものの衣類、まだまだ募集中！

本当に必要とされているものが、なかなか必要とする人々の手に手渡されない。そんなもどかしさを感じ続けて来た私たちですが、昨秋から衣類の大規模な配布体制構築に着手、そして全国の方々に呼びかけた結果、多くの衣類が毎日のよう届き大変助かっております。

集められた衣類は毎週日曜日の炊き出しの前、中央公園等で配布。毎回この衣類配布を楽しみに100名近くの方が既に待っています。昨年のは前半頃は不定期の配布でしたが、今年からは連絡会の定例の配布行動として定着しました。

また、石けんやタオル類は毎週2回、事務所で実施している「シャワーサービス」で利用者の方々に提供しています。こちらも毎回30名近い方が利用してくれます。

ホームレスだからと言って汚い衣類のままでは、心身ともボロボロになってしまいます。せめて、普通の格好をし、衛生面でも気をつかう生活をベースにしてもらいたい。私たちはそう願ひ、衣類配布を中心とした応急援護事業に力を入れています。

行政支援策の中でも、衣類配布やシャワーサービスなどはあまり力を入れてもらえない分野でもあります。なのでその隙間を民間の力で埋めて行く事には大きな意義があると考えています。

衣類の寄付を下さる方々の中には「亡くなられたご主人」「亡くなられた父親」の思い出深い衣類をわざわざ送って下さる方もおります。衣類を必要とする人々の手に渡し、着継がれる事が供養になるのかどうか私たちには分かりませんが、貴重な品々をお分け下さる暖かい気遣いには頭が下がる思いです。

衣類など不用品の寄付は、誰にでも、そして気軽に出来るホームレスへのボランティアなのかも知れません。そのお気持ちに感謝し、そしてそのお気持ちを路上に届ける役目を私たちはこれからも果たしていきたいと思ひます。

引き続きの衣類のご寄付、宜しくお願い致します。

秋、冬ものは10月より募集開始予定です。



主に必要なもののリスト

ワイシャツ	Tシャツ	薄物の上着類
ズボン	靴下	下着
ベルト	帽子	靴（革靴でも可）
タオル	ひげ剃り	石けん
割りばし	シャンプー	リンス

*このリスト以外でも受付可能な衣類はありますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

*連絡会への衣類寄付は残すことなく路上の方々にお渡ししています。フリーマーケット等への転売目的での募集ではありません。

*女性ものの衣類は連絡会は受け付けておりませんので、ご容赦下さいませ。

ボランティア募集中！

新宿炊出し（準備・片付け）
毎週日曜 午後6時より7時半
ところ 新宿中央公園ポケットパーク
池袋炊出し（準備・片付け）
第2、第4土曜 午後3時より5時
ところ 南池袋公園

医療相談会

第2日曜 午後7時より8時半
ところ 新宿中央公園ポケットパーク
第2日曜 午前10時より正午
ところ 戸山公園
パトロール（夜回り）
新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～
戸山公園 毎水曜 午後6時～

新宿連絡会 会計報告

2008年度決算と2009年4-5月報告

多くの方々のご協力で慢性の赤字体質からの脱却が見えてきました。資金面でのご協力して頂いた皆様、どうもありがとうございます。昨年度はこれまでの間借り事務所体制から本格的な事務所体制を築き、事務所での相談体制と物資保管体制を強化出来ました。

2009年度4-5月期 新宿連絡会会計収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		外注費	8,000
1 事業収入	3,500	会議費	510
2 寄付金収入	7,173,162	旅費交通費	140,430
		通信費	319,106
計上収入合計	7,176,662	消耗品費	358,705
		事務用品費	65,639
II 計上支出の部		修繕費	2,600
1 事業費		新聞図書費	2,940
炊き出し事業	918,985	支払手数料	107,468
越年越冬事業	1,418,327	車両費	165,811
夏まつり事業	579,144	研修費	283,283
花見事業	111,003	事務所分担金	2,400,000
墓地事業	50,000	雑費	14,150
池袋支援事業	210,000		
その他活動事業	106,390	計上支出合計	7,272,491
2 管理費		計上収支差額	△95,829
雑給	10,000		

収入)		支出)	
炊出部門寄付	941,707	炊出し事業費	242,724
活動部門寄付	0	池袋支援費	20,000
その他寄付	627,805	花見事業費	139,616
		活動事業費	73,502
		衛生管理費	48,300
		旅費交通費	28,300
		通信費	1,370
		消耗品費	13,490
		車両費	1,260
		事務所費	750,000
		支払手数料	1460
		雑費	16,535
		次期繰越金	232,955
合計)	1,569,512	合計)	1,569,512

とは云え、今年度から路上の仲間の数が急増。お米の備蓄及び炊き出し経費等が心もとなくなってきました。連絡会は専従なし、人件費なしの全てがボランティア活動、しかも集まったお金は右から左へと路上の仲間のために惜しみなく使い切ります。組織防衛より仲間の防衛第一。皆様のご寄付を路上支援へ責任をもって転嫁しています。今年度も資金カンパ宜しくお願い致します。

米 急募！

この間、皆様のご協力でかなりの料、お米を備蓄していましたが、5月以降の仲間の急増であっと言う間にお米の在庫が少なくなり早くも赤信号が灯っています。

連絡会は現在、新宿での一回の炊き出しで約150キロを消費、池袋の仲間（池袋連絡会）にも一回90キロのお米を提供しています。月にして約780キロが必要となっています。

古米でももちろん構いません。着払いもオッケーです。お米券でも構いません。60キロ以上の大量寄付の場合は車で取りに伺います。どうかお台所や納屋の隅に余っているお米がありましたら、1粒から寄付を受け付けております。いつも腹ペコのおじさん達のため、炊き出し用のお米の寄付、宜しくお願い致します！



●活動カンパ

振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.giveone.net/>「Give One（ギブワン）」（登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。）からだジャパネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛て

（平日9時～5時で受取が可能です）でお願いします。

路上最高の
SUMMER
16th 新宿夏まつり
Shinjuku Summer Festival

2009/8/15-16

新宿中央公園

求む！ボランティア

求む！芸人

求む！資金カンパ

求む！お米

求む！夏ものの衣類

求む！石鹸、ひげ剃り、タオル

詳しくは

<http://www.tokyohomeless.com>

もしくは

03-6826-7802/or/090-3818-3450

新宿連絡会まで